

11

子育てが「まちの力」で豊かになる社会をつくる こまちぶらす

横浜市戸塚区

こまちぶらす 代表

key person



もり ゆみこ
森 祐美子さん



自分の出産で感じた孤独感、不安感

活動を始めたきっかけは、自分の出産のときに味わった、何とも言えない孤独感、孤立感、不安感でした。それまでは、学校や職場というコミュニティが存在し、その中で自分の居場所や役割がありました。ところが、出産を機に会社を休み、突然なじみの薄い地域の中に入り、経験したことのない生活が始まりました。

子育てがはじまり、子どもの小さな成長をゆっくりと待つこと。そんなことがとても大事ですが、それは、それまでの

自分が学校や職場で良しとされていた価値観（例えば「より速く、より多く、より強く」というようなもの）とは全く別の価値観です。子育て情報も世の中にはいっぱいあるけれど、何が正しくて、どんな暮らしが良いのかはわからない中で、自分自身リセットしなければならないと感じました。同時に、社会から取り残された感と、孤独感。次の自分を見つけることはそう簡単ではありませんでした。

そんな時、戸塚区の子育て支援拠点の立ち上げの情報を得て応募し、月一回、立ち上げの会議に参加する機会を得ました。子どもを連れて会議に参加する時、同じように参加していた、異年齢の地域の方々が、子どもを抱っこしてくれました。先輩ママさんでもある皆さんは、私の子どもに温かな眼差しを注いでくださいながら、母親の私の話もいろいろ聞いてくださいました。その時、久しぶりに「自分がそこに存在している」という新しい感覚を実感できたのでした。支援以上に「参加」が大きな力になると感じました。

「この感覚を皆と共有したい、いろいろな人が孤独を感じず、外に出てこられるようなものを作りたい」会議への参加を重ねることで、そういった漠然とした想いが強くなりました。

こまちぶらすとは

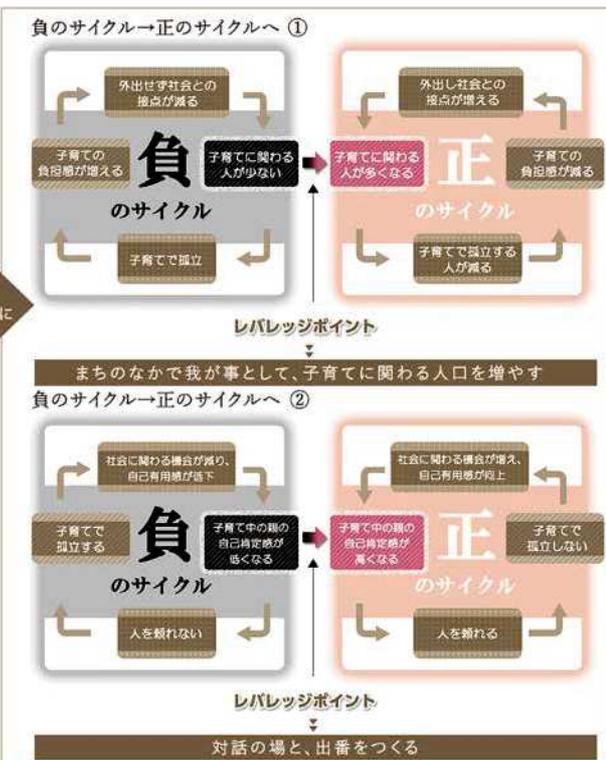
Vision — 私たちが目指している社会 —
子育てが「まちの力」で豊かになる社会へ

Mission — 私たちの役割 —
孤立した子育てをなくしそれぞれの人の力が活躍の機会をつくる

Strategy — 目指し方 —

- 企業や行政、地域の方々と共に「集まった声」をもとに事業を生み出し、既存のインフラに埋め込み、次世代に残す。
- “まちの担い手”を育む場の創造に挑戦し、成長しつづける事業者である。
- Think global, act local (グローバルに考え、ローカルで行動する)

ミッションを達成するために



2003年4月にトヨタ自動車に入社、海外営業や海外調査に従事。子どもの出産後孤立した子育てへの危機感を感じ2012年同社退職。ママ友たちと「こまちぶらす」を設立。2019年「認定NPO法人こまちぶらす」に。横浜市戸塚区に根差した居場所「こまちカフェ」の運営を中心に、子育てがたくさんの街の方の「我が事」となるようなプロジェクトを展開。



Try and Errorの始まり スキルじゃなくて人として受け止められたい！



2人目の子どもの出産、育児休暇取得後、会社勤めに復帰しました。私が勤務していた会社は、私が子育てがしやすいよう、当時最大限の配慮をしてくれました。しかし、子育ての今の環境をそのまま引き継ぎたくないという思いが捨てきれず会社を退職し、親子サークル、赤ちゃんサロンなどを一緒にやっていた仲間ママ友6人に声をかけて、こまちぶらすを立ち上げました。地域に誰でも気軽に來ることのできる居場所を作りたいという想いを実現するため、週1回、間借りしての活動スタートでした。「行政からの助成金などには頼らない」と思って始めたので、場所、お金、仲間、すべてに苦勞の連続でした。2度の移転もあったり、組織崩壊というピンチもありました。一方、ちょうどその苦しい時期に横浜市の「まち普請事業」に手を挙げて、幸運にも採択され、現店舗に移転することになりました。新たにメンバーを募り、時間をかけて話し合い、自分たちが今の場所で、商店会の人たちと一緒に「子育てを通して豊かなまちを創っていく」ことを目指して活動することの青写真がやっと描けたと思っています。

いろいろなネットワークが私たちを支え広げる

活動の立ち上げ、活動の継続維持、活動の展開、どの側面を捉えても、私たちの活動には「ネットワーク」が必要不可欠でした。立ち上げ時は、ママ友たちとのネットワークや子育て支援拠点、区民活動センターなどさまざまな中間支援組織の既存ネットワークに助けられ、NPO法人としてのスタートの仕方、組織運営や事業展開、多様な世代との接点づくり等、活動していくことができました。

継続維持の場面では、一度組織として方向性を見失ってしまったときがありましたが、その時にもたくさんの方に支

えてもらいました。2014（平成26）年には横浜市「まち普請事業」に挑戦をしましたが、そのコンペを勝ち抜く1年間弱、担当職員の方々が我慢強く伴走してくださいました。「自分たちは何をやりたいのか、何をすべきなのか」を仲間と明確化する機会を得ました。この時間は非常に大切な時間になったと思います。事業の明確化ができたことが、自分たちの進むべき方向を明確にし、活動の展開にも大きく役立ちました。また、そのコンペの最終発表時には、商店会やたくさんの地域の方が応援にきてくださってたくさん勇気もらったのも忘れられないことの一つです。

そして、戸塚の商店会の皆さんとのネットワーク。今の場所にカフェを構えてから商店会のいろいろな方とコミュニケーションを深め、活動を少しずつ一緒にするようになり、今では法人として事務局をつとめるようになりました。商店会として今は「こども・高齢者・障がいをもった人も誇りと居場所と出番を感じられる地域」というビジョンを掲げて活動していますが、子育てがまちで豊かになっていく社会を描いたときに、こういったネットワークで取り組んでいくことは欠かせません。

戸塚というエリアを活動拠点として得られたこと、戸塚を中心としてたくさんの方とのネットワークを得られたことが、活動基盤構築のための原動力となっています。



現状と課題

たくさんのスタッフやこまちパートナー（ボランティアメンバー）と一緒に事業をつくっています。働き方や働き甲斐、関わりたい範囲や度合いもさまざまです。でも多様な人がいるからこそ、「あの人になれば自分の話ができそう」と足を運んでくださる方が相性の合う人と会える確立も高まります。その多様な在り方を共存させながらも、目指している社会に向けて力強く進められるにはどんな組織づくりをし

団体の概要

comachi
plus

認定 NPO 法人 こまちぶらす

所在地 横浜市戸塚区戸塚町 145-6 奈良ビル 2F
TEL 070-5562-9555
WEB <https://comachiplus.org/>
代表者 理事長 森 祐美子
開設年月日 2012年2月
スタッフ数 45名 こまちパートナー 162名
活動日 月～土 10:00～17:00

活動内容

- ① 適切な情報を届ける（地域子育てカレンダー、とつかの子育て応援ルームとことこ情報スペース運営）
- ② 飲食の提供・居場所づくり「こまちカフェ」
- ③ 多様な人々の境的包摂を推進
- ④ レンタルスペースの貸出・haco+
- ⑤ つながり事業（ウェルカムベビープロジェクト、つながりデザインプロジェクト）
- ⑥ 提言・啓発



たらいいか、関わりのデザインがしていけるかが、これまでもこれから課題です。

こまちカフェ

こまちぶらすが最初に目指した「子育て中のお母さんたちに居場所と情報を届ける」というメインの取り組みとして、こまちカフェは誕生しました。現店舗での営業は2014(平成26)年に開始しました。



お母さんたちに、両手を使ってゆっくりと、あたたかいうちに料理を食べてもらえるよう、平日のランチタイムには「見守りボランティア」がいて、赤ちゃんを抱っこしたり、店内で遊ぶお子さんを見守ります。

また、飲食のスペースには手づくり雑貨の販売、店内奥にはイベント用のスペースがあり、イベントを開催されたい個人や団体に貸し出しもしています。こまちぶらす主催の会も定期的に行っており、お子さんの発達が気になる方のための「でこぼこの会」、ダブルケアの方のための「ケアラーズカフェえんがわ」、不登校・ひきこもりの子をもつ方のための「ほっとひと息金曜日」といった「自分の思いを話せて、誰かの思いにふれる場」も作っています。

こまちカフェは、気軽に立ち寄りリフレッシュできる「カフェ」の機能と、その「場」から地域の担い手が育まれるという機能を持ち合わせる居場所で、活動の中心的な機能を果たす最も大切にしている事業です。いろいろな人が来て、スタッフとおしゃべりしたり、ゆっくりご飯を食べたりしています。そこで語られる何気ない会話や一人一人の表情から、その人のニーズやその人の可能性など貴重な情報が得られるので、その小さな情報を大切に、丁寧に拾い上げながら事業を企画したり、あるいはスタッフとしてのつながりを提案するなど、事業の維持発展のためにも大切な場となっています。

敷居の低さ、居心地の良さが、結果としていろいろな人のつながりを紡ぐ場所になっています。

例えば、お母さんがカフェとつながることにより少し前向きになれると、一緒に来ていた子どももカフェで、人とのつながりができるなど、年齢を問わずいろいろな人の日常のつながりを育てる居場所となっています。



店長の守家 文子さん

つながりデザインプロジェクト

飲食やイベントなどをきっかけに「こまちカフェ」を訪れた方々が、新しい社会との出会いのきっかけとなり、自分のやりたいことを見つけ、やがて「地域の誰かの役に立つ」までの循環を生み出す取り組みとして、「こまちパートナー

というボランティア登録制度を実施しています。カフェという日常に近い場で、その居場所の登録ボランティアになり、居場所の中で少しずつ自身の活躍のチャンスを見つけ、そしてやがて「まちの担い手」に「いつの間にならっていた」ということを目指しています。こまちカフェという場を通じて、いろいろな人に出会い、コミュニケーションをし、意欲や想像力が満ちた時、新たな実践者としてともに活動する仲間を少しずつでも増やしていきたいと思っています。現在スタッフ約45名、こまちパートナー約160名、その他さまざまな形で多くの方が活動に関わってくださっています。

こまちパートナーの方々の「やってみたい」が実現したイベントや取り組みもたくさん生まれ、こまちぶらすの活動がより豊かになっています。

とつかフューチャーセッション

立場の違いを超えて人々が集い、社会的課題をさまざまな角度で見つめ、対話し、協業する場を継続的につくるために「とつかフューチャーセッション」というワークショップを「子育て」「介護」「障がい」をテーマに2016(平成28)年度より開催しています。ゲストスピーカーの講演や、当事者の声を通したワークから、「自分に何ができるか？」と一緒に考えています。また、法人のビジョンと共に「目指し方」として掲げている“Think global, act local”にもつながる取り組みとして、2018(平成30)年度は「海の向こうの声」も集めて、自分たちの地域の在り方を海外の現状や当事者の声に触れながら対話を深めるという試みも行いました。このような対話のきっかけづくり、あるいはテーマの明確化のためのツールの開発にも、時間をかけて取り組んでいます。



活動の自己評価

